

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成30年度病害虫発生予察特殊報第4号について

平成30年度病害虫発生予察特殊報第4号を発表したので送付します。

平成30年度病害虫発生予察特殊報第4号

1 病害虫名 サツマイモ基腐病（仮称）

病原菌：*Plenodomus destruens* Harter

(syn. *Phomopsis destruens* (Harter) Boerema, Loerakker & Hamers)

サツマイモ乾腐病

病原菌：*Diaporthe batatas* Harter

(ana. *Phomopsis batatas* (Ellis & Halst) Harter & E.C.Field)

2 作物名 かんしょ

3 発生確認の経過

- 1) 平成30年産のかんしょ栽培において、地際の茎や塊根が腐敗する症状（図1、2）が確認され、県総合農業試験場につるや塊根のサンプルが持ち込まれた。本場で診断を行ったところ、茎根腐細菌病やつる割病菌が分離されたが、一部に異なる菌叢が確認されたため、県総合農業試験場生物環境部および門司植物防疫所で同定を実施した。その結果、サツマイモ基腐病（仮称）菌及びサツマイモ乾腐病菌であると判明した。
- 2) サツマイモ基腐病（仮称）は沖縄県および鹿児島県でも発生が確認されている。国外では台湾、中国、韓国、タンザニア、南アフリカ、ニュージーランド、アメリカ、キューバ、カリブ諸国、ブラジル、アルゼンチンなどでの発生が知られている。
- 3) サツマイモ乾腐病は貯蔵病害として国内で広く知られている。

4 病原菌の特徴

サツマイモ基腐病（仮称）

- 1) 病原菌は糸状菌の一種で不完全菌類に属し、分生子には大きさ、形状の異なる二つの型がある（図3, 4）。宿主植物はヒルガオ科である。
- 2) 本病は発病したつるや塊根で伝染し、害虫の食害などの傷により病原菌の侵入が助長される。病原菌は植物残渣上で越冬して翌年の伝染源となる。

サツマイモ乾腐病

- 1) 病原菌は糸状菌の一種で子のう菌類に属し、発病した塊根に見られる柄子殻内に大きさ、形状の異なる二つの型の分生子（柄孢子）を形成する（図5, 6）。宿主植物はヒルガオ科である。
- 2) 病原菌は感染した塊根上で越冬して翌年の伝染源となる。

5 防除対策

本病は、既知のつる割病と同じ糸状菌による土壌病害であり、防除対策は以下のとおり基本的に同じである。

- 1) 発病した株（つるや塊根）は速やかに抜取り、ほ場や周辺に残さないよう処分する。
- 2) 収穫後はほ場からかんしょの残さを速やかに除去する。
- 3) 本病が発生したほ場で使った資材や機材を別ほ場で使う際は消毒や洗浄を十分に行う。
- 4) 本病が発生したほ場では、次作のかんしょ栽培を控えて極力輪作を行う。
- 5) 本病が発生したほ場からは種芋を取らない。
- 6) 種芋には腐敗や病害、傷のない健全な芋を使用し、種芋および苗の消毒を確実に行う。
- 7) 苗床の土壌消毒を行う。
- 8) 植付前には、ほ場の排水対策や土壌消毒を十分行う。



図1 ほ場の発生状況



図2 塊根の腐敗状況



図3 *Plenodomus destruens* のPDA培地上の菌叢

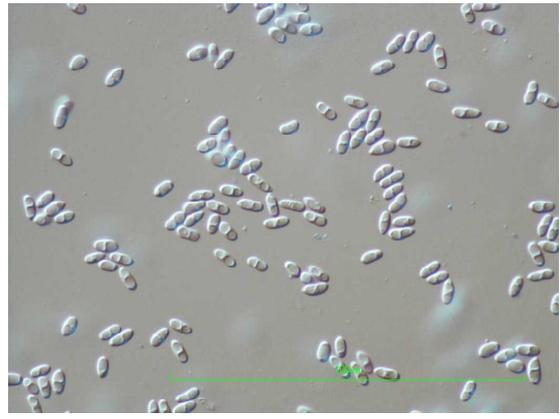


図4 *P. destruens* 分生子の形状 (PDA培地)



図5 *Diaporthe batatas* のPDA培地上の菌叢

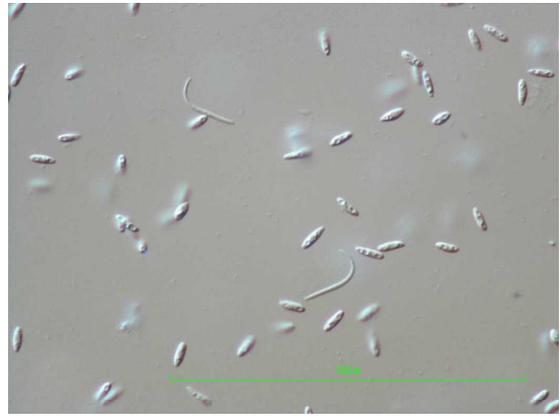


図6 *D. batatas* 分生子の形状 (PDA培地)

《連絡先》

宮崎県総合農業試験場 病害虫防除・肥料検査課
(病害虫防除・肥料検査センター) 松浦、森下
TEL : 0985-73-6670 FAX : 0985-73-7499
E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp
ホームページ : <http://www.jpnpn.ne.jp/miyazaki>